

平成 23 年 7 月 13 日

東京都市大学付属各校の放射線量等の測定結果について

3 月 11 日(金)に東日本を襲った東日本大震災及びそれに伴う津波により事故が発生した福島第一原子力発電所からの放射性物質の拡散に対し、東京都が実施している都内 100 箇所での放射線量等の測定値を補完するため、五島育英会では東京都市大学原子力研究所に依頼し、7 月 2 日(土)にグループ内の高等学校以下各校において放射線量等の測定を実施いたしました。

測定当日は、敷地内や生徒や児童・園児が利用するグラウンド・園庭等ではサーベイメータと呼ばれる測定器により放射線量を測定し、水道水及び土壌から試料を採取して原子力研究所の分析装置により放射能を測定しました。

その結果、放射線量は自然放射線量の変動範囲内であり、水道水で検出された放射能も同様で、特別なものは検出されませんでした。土壌の放射能分析結果からは、福島第一原子力発電所の事故に由来する放射能がごく微量検出されましたが、放射線量への影響は上記の通りで、例えば、国内の地域差(標高差や緯度差)、通常の土壌や砂とコンクリート、火山性の砂や石等の採取地や成分の違いなどによる差異はありますが、元々自然界に存在する放射線量の変動範囲内であり、学校生活に影響を与えるものではないことが確認できました。

因みに、福島第一原子力発電所の事故以前での自然界(宇宙線および大地放射線)からの放射線の被ばく量は、全国平均で $0.07 \mu\text{Sv/h}$ という数値となっています。

保護者の皆様におかれましてはご心配であったと存じますが、本法人ではグループ内の各校におきましては、通常の教育活動の実施に問題はないと判断し、安心して学校生活を送ることが出来る環境にあることをここにご報告いたします。

今後も細心の注意を払いながら東京都市大学原子力研究所の協力のもとに、放射線量等の状況変化を見守ってまいります。

実施年月日	平成 23 年 7 月 2 日(土)
測定器	放射線量率測定 NaI(T)シンチレーションサーベイメータ TCS-171B(アロカ社製) 測定器 S/N: R08106 校正年月日: 2010 年 10 月 12 日
	土壌及び水道水の放射能濃度測定 ゲルマニウム半導体検出器(GEM-20190) 検出器 S/N: 26-P1742B

東京都市大学総合グラウンドの測定結果

住所	世田谷区鎌田 1 -16- 1
測定日時	平成23年7月2日 9時50分～10時35分

(1)放射線量率測定

測定場所		放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)			表面
		5cm(表面)	50cm	100cm	
野球場 入口付近	花壇	0.06			土
	地面	0.09			土
	木の葉	0.09			
	木の下	0.08			土
	生垣の下(入口向側)	0.12			湿った土
野球場	側溝の上	0.09			金属
	ピッチャーマウンド	0.07	0.06	0.05	土
	ベンチ 床	0.08	0.07	0.08	コンクリート上に 茶色い細かい土
	ベンチの手洗い場中央	0.08			コンクリート上に土
	ネット付近(左側)	0.08			
	2 塁付近	0.06			草
	側溝の中	0.10			湿った土
多目的グラウンド	中央	0.12	0.11	0.10	人工芝+砂
テニスコート	中央	0.12	0.10	0.09	人工芝+砂
ラウンジのテーブルの上		0.06			

(2)土壌及び水道水の放射能濃度測定

項目	場所	採取箇所	採取量	測定結果
土壌	野球場 側溝付近	地表面	約88g	$0.09 \mu\text{Sv/h}$
		地表下 0~5cm	約86g	$0.08 \mu\text{Sv/h}$
水道水	ラウンジ横の外の水道		500ml	不検出